

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 18 日現在

機関番号：32607

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24501247

研究課題名(和文)江戸時代医学・本草学資料の整理と研究

研究課題名(英文)Organization and study of Edo period sources on medicine and herbalism

研究代表者

小曾戸 洋(KOSOTO, Hiroshi)

北里大学・東洋医学総合研究所・部長

研究者番号：90186693

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,100,000円

研究成果の概要(和文)：江戸時代、伝統医学に関して日本は中国を凌駕する発展を遂げ、膨大な量の資料が伝承され、著述された。現在、国内外の特殊図書館や博物館に保管されている資料のほか、民間に伝存しつつも世に埋もれた資料は少なくない。本研究では、これら未発掘、未整理の伝統医学資料に光を当て、修復・整理・目録作成の作業を行い、電子データ化し、今後の伝統医学文化研究の基盤確立を試みたものである。従来の研究を踏襲し、今回の研究によって獲得した保存資料のデータ量は多大である。

研究成果の概要(英文)：In the Edo period traditional medicine in Japan developed sufficiently that it surpassed traditional medicine in China. A vast amount of original sources have been passed down, and many works written. Currently, apart from sources kept in special libraries and in museums in Japan and abroad, there are not a small number of sources that have been preserved in private hands and which remain largely unknown. In this study we have shed light on these undiscovered and unorganized sources on traditional medicine, and have engaged in their repair, organizing, and cataloging. We have aimed to digitize them, and thus establish a foundation for future study of traditional medical culture. We have built on previous research, and have acquired a significant amount of data on preserved original sources.

研究分野：東洋医学 和漢書誌学 医学史 科学技術史

キーワード：書誌学 伝統医学史 史料研究 古文書学 医学史 漢方・和漢薬 東アジア史 近世史

1. 研究開始当初の背景

研究代表者らが所属する北里大学東洋医学総合研究所・医史学研究部は、長年にわたり日本と中国の伝統医学の史的研究を行ってきた。とくに書誌学的研究は最も専門とするところであり、従来学内には多量の資料を蒐集し、また学外では国内外を問わず広く資料の所在を求め、調査研究を進めてきた。その成果を集大成すべく、平成 14～15 年度、平成 16～17 年度には特定領域研究(2)「江戸のモノづくり」の公募研究に参画し、研究成果報告書として合計 1,000 頁を超す大冊 2 部を刊行。「江戸のモノづくり」の研究班うちでも突出した成果を挙げたと自負している。ただ、その研究過程において、またその後にも、新たな資料(以下、新出資料群と称する)が続出する事態が生じた。これは資料の検索がさらに徹底したことを示す結果として喜ばしいことであり、目下、これら資料を従来と同様の手法をもって整理研究する必要性を自覚し、周囲からも情報公開の期待が寄せられている。従前の研究成果をより完全なものとし、学界により豊富な資料の情報を提供するため、本研究に着手した。

2. 研究の目的

(1) 新出資料群には永年を経て虫害、浸水等による損傷を蒙った資料が少なくない。これまでの方針に従い、当研究部が開発・研鑽した修復技術を駆使して補修を施し、整理し、目録を作成し、資料に対する個別研究を行い、世に情報を公開する。

(2) すでに目録を公開している当研究所所蔵の文献資料(大塚修琴堂文庫、石原保秀文庫、岡田昌春文庫、多紀家文庫、合田文庫、医史研所蔵古書等)については、最新の写真撮影機材を導入し、複写(撮影)し、電子画像データ化をめざす。

(3) 江戸時代目録資料(『聿修堂蔵本朝医書目』等 25 種)を文字データ化し、総合索引を付し、現存資料と江戸時代目録資料との照合研究の便をはかる。これによって医学・本草書の書誌学的研究は大いに進展するものと期待される。

(4) 当研究部には約 30 年にわたり、日本・中国・台湾の特殊図書館・個人文庫より複写したマイクロフィルム(35mmネガ・ポジフィルム、マイクロフィッシュ等)の膨大な集積がある。これらは経時的劣化による情報損失の危険にさらされている。順次電子画像データ化作業を進め、可能なものについてはネット公開をめざしたい。

3. 研究の方法

(1) 世に埋もれた伝承医学資料(史料)を見出し、光を当てる。

(2) 保存・閲覧のため修理が必要な古文書史料には補修を施す。

(3) 資料を整理し、目録を作成する。

(4) 貴重なものから順次画像データ化(写

真複写)する。

(5) 目録を文字データ化し、索引作成を可能にする。

(6) データの公開に備えた手段を講じる。

4. 研究成果

(1) 古医薬書の画像データ化。北里研究所東洋医学総合研究所医史学研究部(以下「北里医史研」と略す)は創設 30 余年来、古医薬書に関する紙媒体資料とともに、貴重な古医薬書のマイクロフィルム(35mmネガロールフィルム、35mmリバーサルロールフィルム、マイクロフィッシュ等)を精力的に収集してきた。その数は 680 点(176,936 コマ)という多数に達する。原本所蔵者は、宮内庁書陵部、静嘉堂文庫、国立国会図書館、国立公文書館内閣文庫、台北故宮博物院図書館、台北国立中央図書館、北京大学図書館、東京大学総合図書館鶚軒文庫、その他の特殊図書館である。内容は、中国古版本(宋版・元版・明版・清版)、朝鮮古版、日本古写本(鎌倉・南北朝・室町・安土桃山・江戸)和刻本(室町～江戸)などである。古いマイクロフィルムはすでに劣化を生じ酸性臭を放つ。そこで武田科学振興財団杏雨書屋の協力を得、全点の画像データ化を完了し、目録を作成した。所蔵権は各原本所有の図書館にあり、データは目下非公開である。

(2) 紙媒体資料の目録作成。上記マイクロフィルム文献資料のほか、北里医史研では紙媒体のコピー用紙製本も多数所蔵している。これらについても全点の目録を作成した。

(3) 医学資料ファイルの充実化。北里医史研では創設以来、「中国医書」「中国医師」「日本医書」「日本医師」についてのクリアファイルを作成し、情報を集め、整理してきている。本科研費研究期間中もその充実化に努め、多大なる情報を蓄積した。現在も日々拡充しつつある。

(4) 小曾戸文庫目録の作成。小曾戸家は富吉・丈夫・洋の 3 代にわたり医薬を中心とする古文書、書跡、古美術の蒐集を継続してきた。そのうち秀逸なるもの 1802 点を選び、平成 23 年に武田科学振興財団杏雨書屋に譲渡し、目録を作成した。現物は現在杏雨書屋で閲覧可能である。

(5) 田中弥性園文庫目録の作成。田中弥性園(現当主は田中祐尾氏)は古くから大阪八尾で医業を営む家系で、古医書を数多く収蔵している。これらは平成 22 年に武田科学振興財団杏雨書屋に譲渡された。その数は全 701 点。この田中弥性園文庫を詳細に調査し、整理修復作業を行い、目録を作成した。

(6) 出雲岩崎家旧蔵医書の調査と目録作成。出雲の佐田町八幡原に在住する岩崎宗右衛門尉以来の旧家には古医書が多数伝来する。16 世紀末の出雲平宣政による古活字版『医方大成論』や曲直瀬道三の古写本『七表陽脈主属之図』『宜禁集』などはその白眉である。出雲岩崎家に赴いてこれら古医学資料を実

見調査し、目録を作成。調査報告書を出雲市役所文化財課に提出し、日本医史学会でも発表を行った。この調査によって平成 25 年、岩崎家文書は出雲市指定文化財に指定された。

(7) 福井崇蘭館旧蔵医書の調査。京都福井家は楓亭・榕亭・棊園・恒齋と続いた名医家で、その書室を崇蘭館と称し、多数の善本医書を収蔵することで江戸の考証学者の間でも知られた。一部『黄帝内経太素』零巻(重要文化財)、『新修本草』零巻(重要文化財)、宋版『外台秘要方』(荻野本)などは戦前に流失して杏雨書屋に入ったが、その他の多くの善本の所在は知られていなかった。ところが、昨年、文化庁の蔵に帰した日本古版本・日本写本・朝鮮古版、計 46 点が杏雨書屋に委託されることとなり、本科研費研究の一端として調査研究を行い、調書を作成した。本年 4 月にはその内の白眉である五山版『察病指南』を杏雨書屋にて展示し、解説を行った。

(8) 金沢文庫本宋版『孫真人玉函方』『膏肓腧穴灸法』『産育宝慶集』の発見と研究。平成 24 年 5 月、報告者は千葉県館山市の旧医家・上野氏家伝の医学史料(館山市立博物館現蔵)中に「金沢文庫」の古印のある宋元版『孫真人玉函方』等 3 書を発見。館山市立博物館の協力のもと調査研究を行った。この『孫真人玉函方』は中国・日本ともに佚書で、従来全く存在の知られない絶品である。その序文が「玉函方序曰」として惟宗時俊『医家千字文註』(1293)に引用されていることから、すでに本書が鎌倉時代に日本に舶載されていたことがわかる。「金沢文庫」の押印もそのことを証明している。金沢文庫旧蔵本の新出品としても重要な発見であり、本科研費研究の一環として詳細な研究を行い、一昨春秋、横浜市の金沢文庫で行われた展示会に出品され、研究の成果を講演会で発表した。上野家旧蔵品にはこのほか貴重な医学史料がある。金沢文庫旧蔵の医書についても総合的な研究を進め、日本医史学会で発表した。

(9) 国立科学博物館所蔵和田コレクション古医書類の調査と目録作成。近年、つくば市の国立科学博物館に京都の医家・和田代志氏の蒐集にかかる古医学資料が入庫した(その一部は昨年 4 月上野国立科学博物館開催「医は仁術」で公開)。報告者らは国立科学博物館の依頼を承け、本科研費研究の一環として数度に及びつくば市に赴き、その古医書類を調査・整理・分類して目録を作成し、同館に提出した。

(10) 大塚修琴堂文庫の再整理と目録作成。昭和漢方の泰斗・大塚敬節の蒐集にかかる修琴堂文庫についてはかつて整理・分類を行い、平成 14~15 年度の科研費研究「江戸のモノづくり」及び平成 16~17 年度のそれで報告した。これは従来北里医史研の貴重書保管庫に収蔵されていたが、平成 25 年に杏雨書屋に移管されることになり、再度、杏雨書屋の職員と中尾書店の立合いのもと目録の再点

検を行った。新たに大塚家から移管された新出品(多くは軸物)もある。現在、大塚修琴堂文庫は杏雨書屋に収蔵され、公開に応じている。

(11) 奥田・藤平文庫の目録作成。昭和時代に千葉県下で活躍した漢方大家の奥田謙蔵・藤平健の旧蔵古医書類が平成 24 年、杏雨書屋に入庫した。本科研費研究の一環としてその目録作成に関与した。

(12) 『観聚方要補』の研究。『観聚方要補』は江戸医学館を主催した多紀氏の編纂になる漢方処方集で、歴代中国医書及び日本医書の重要処方の集大成である。従来、文政版が知られていたが、『医心方』あるいは日本現存中国古版医書の出現により文政版を全面改定した安政版の存在は世に知られなかった。報告者らはその重要性に着目し、本科研費研究の一環として安政版を平成 25 年に影印出版。この安政版をもとに索引を作成し、種々の角度から研究を行った。その成化は日本医史学会、日本東洋医学会で発表した。

(13) 日本医史学会旧蔵医家肖像軸の整理修復と公開。日本医史学会には旧来、富士川游らの蒐集になる日本医家の肖像画軸が多数所蔵されていたが、昭和中期に甚大な水害を被り、腐蝕・虫損を重ねていた。平成 26 年、現存するもの 38 点を杏雨書屋多くに移管することになり本科研費研究の一環として調査を行った。これらは本年初、杏雨書屋の尽力で補修がなり、本年 4 月、杏雨書屋の展示室でその多くが公開展示された。旧知の医家肖像類を補完する資料群として貴重な文化財である。

(14) 『医心方』の研究と欧米への発信。『医心方』は 984 年に丹波康頼が編纂したわが国現存柴胡の医学全書で、古鈔本(半井本と仁和寺本)が国宝に指定されている唯一の日本人著作医書である。報告者はオックスフォード大学デニス・ノーブル教授の要請に応え、2013 年英国で『医心方』に関する講演を行い、英文誌に論文を発表した。

(15) 下関市立長府博物館新収の松岡家医学史料の調査。下関市立長府博物館には最近、当地長府藩の藩医であった松岡家の古医学資料が寄贈された。報告者らは昨年同館を訪ね、それらを調査。その一部を『漢方の臨床』誌に報告した。

(16) 江戸時代に編纂された医籍目録の文字データ化。江戸時代に各家が編纂した医書目録は、いつ、どのような書籍が、どこに所蔵されていたかを調査するうえで、書誌学研究においてきわめて重要な資料である。しかしこれらのほとんどは毛筆の写本で、文字データ化して索引を作らなければ総合的検索は容易ではない。よって『経籍訪古志(医籍訪古志)』『崇蘭館医書目』『宝素堂医籍目録』『渋江書目抄』『聿修堂蔵書目録』『半井家蔵書抜目六』『存誠薬宝本邦医書目』『春雨書屋蔵書目』『酌源堂医書目録』『懐仙楼書目』『医籍考』『本朝医書』『錦小路蔵書目録』『森氏開

万冊府蔵書目録』などを文字データ化し、検索に容易ならしめた。

(17) その他。上記(1)～(16)のほか、戸田市立博物館(岡田静安旧蔵書)、足利学校、毛利博物館(曲直瀬道三関係書)、三原市立図書館(同上)、臼杵市立図書館(同上)、杏雨書屋新収図書、和智明彦氏所蔵図書(新妻莊五郎旧蔵書)、和田源司氏所蔵医書(和田泰安旧蔵山田業広関係書)、伊予久保順理堂旧蔵医書などの資料群について調査検討を行い、研究資料及び知見を得た。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計34件)

小曾戸 洋、町 泉寿郎、目でみる漢方史料館(317)神農像 福井棣園賛、漢方の臨床 62(1)、2-4、査読無、2015/1/25

小曾戸 洋、目でみる漢方史料館(316)扁鵲像 桂川国瑞賛、漢方の臨床 61(12)、1954-1956、査読無、2014/12/25

小曾戸 洋、漢方のたからもの(30)目黒道琢の足跡、漢方と診療 5(3)、252-253、査読無、2014/11/1

小曾戸 洋、目でみる漢方史料館(314)『巖氏濟生方』の宋刊本、漢方の臨床 61(10)、1578-1580、査読無、2014/10/25

小曾戸 洋、東亜医学協会の沿革、漢方の臨床 61(8)、1247-1248、査読無、2014/8/25

小曾戸 洋、目でみる漢方史料館(312)『啓迪集』が重要文化財に！、漢方の臨床 61(8)、1238-1240、査読無、2014/8/25

小曾戸 洋、漢方のたからもの(29)熊宗立と『医書大全』『医方大成論』、漢方と診療 5(2)、164-165、査読無、2014/7/1

小曾戸 洋、天野陽介、目でみる漢方史料館(308)世界初の印刷医書 『新集備急灸経』、漢方の臨床 61(4)、558-560、査読無、2014/4/25

小曾戸 洋、漢方のたからもの(28)小野蘭山と『本草綱目啓蒙』、漢方と診療 5(1)、82-83、査読無、2014/4/1

小曾戸 洋、目でみる漢方史料館(304)『医心方提要』、漢方の臨床 60(12)、1918-1920、

査読無、2013/12/25

小曾戸 洋、漢方のたからもの(26)『和劑局方(わざいきよくほう)』と『局方發揮(きよくほうはつき)』、漢方と診療 4(3)、206-207、査読無、2013/10

小曾戸 洋、目でみる漢方史料館(301)『魏氏家蔵方』 宋版医書の絶品(その1)、漢方の臨床 60(9)、1422-1424、査読無、2013/9/25

小曾戸 洋、漢方のたからもの(25)森立之(もりたつゆき)とその著述、漢方と診療 4(2)、132-133、査読無、2013/07

小曾戸 洋、天野陽介、和田源司、目でみる漢方史料館(298)山田業広の遺墨、漢方の臨床、934-936、査読無、2013/6/25

小曾戸 洋、目でみる漢方史料館(297)安政版『観聚方要補』、漢方の臨床 60(5)、766-768、査読無、2013/5/25

小曾戸 洋、卷子写本から宋元版へ 中世日本における中国医書受容の様相、福岡医師漢方研究会会報 34(5)、8-29、査読無、2013/5/1

小曾戸 洋、目でみる漢方史料館(296)『楊氏家蔵方』 金沢文庫旧蔵の宋版、漢方の臨床 60(4)、598-600、査読無、2013/4/25

小曾戸 洋、漢方のたからもの(24)尾台榕堂(おだいようどう)とその著述、漢方と診療 4(1)、62-63、査読無、2013/04

Hiroshi Kosoto、The History and Significance of Ishinpo、Register of Chinese Herbal Medicine Vol.10 No.1、5-12、査読無、2013/2/1

小曾戸 洋、目でみる漢方史料館(288)『孫真人玉函方』 金沢文庫旧蔵古版本の出現、漢方の臨床 59(9)、1558-1560、2012/9/25

①小曾戸 洋、田中彌性園文庫の貴重書、杏雨 15、108-120、査読無、2012/5/30

②小曾戸 洋、田中彌性園文庫の善本医書、杏雨 15、121-134、査読無、2012/5/30

③小曾戸 洋、日本漢方医学形成之軌跡、中

国科技史雑誌 33(1)、80-85、2012/12/1
など

〔学会発表〕(計 37 件)

小曾戸 洋、医史学 日中伝統医学略史、
第 65 回日本東洋医学会学術総会、2014/6/28、
東京国際フォーラム(東京都・千代田区)

堀田広満、小曾戸 洋、花輪壽彦、『幼々
新書』引用医籍の検討、第 115 回日本医史学
会学術大会、2014/5/31、九州国立博物館(福
岡県・太宰府市)

小曾戸 洋、足臂十一脈灸経から空海まで
灸の歴史と日本、第 63 回(公社)全日本鍼
灸学会 学術大会 愛媛大会、2014/5/17、ひ
めぎんホール(愛媛県・松山市)、全日本鍼
灸学会学術大会抄録集 特別講演

小曾戸 洋、杏雨書屋のコレクション、第
31 回杏雨書屋研究講演会、2014/4/19、リー
ガロイヤル NCB(大阪府・大阪市)

町 泉寿郎、小曾戸 洋、江戸医学館にお
ける臨床と『観聚方要補』、第 64 回日本東洋
医学会学術総会、2013/6/2、城山観光ホテル
(鹿児島県・鹿児島市)

渡辺浩二、天野陽介、堀田広満、大津幸恵、
小曾戸 洋、花輪壽彦、『観聚方要補』の研究
(第 5 報)『勿誤薬室方函』、第 64 回日本東
洋医学会学術総会、2013/6/1、城山観光ホテ
ル(鹿児島県・鹿児島市)

堀田広満、渡辺浩二、天野陽介、大津幸恵、
小曾戸 洋、花輪壽彦、『観聚方要補』の研究
(第 4 報)『小児薬証直訣』、第 64 回日本
東洋医学会学術総会、2013/6/1、城山観光ホ
テル(鹿児島県・鹿児島市)

天野陽介、渡辺浩二、堀田広満、大津幸恵、
小曾戸 洋、花輪壽彦、『観聚方要補』の研究
(第 3 報)引用書の検証、第 64 回日本東洋
医学会学術総会、2013/6/1、城山観光ホテル
(鹿児島県・鹿児島市)

大津幸恵、堀田広満、渡辺浩二、天野陽介、
野澤隆幸、小曾戸 洋、花輪壽彦、『観聚方
要補』の研究(第 2 報)引用処方成立時代、

第 64 回日本東洋医学会学術総会、2013/6/1、
城山観光ホテル(鹿児島県・鹿児島市)

小曾戸 洋、町泉寿郎、友部和弘、渡辺浩
二、天野陽介、緒方千秋、坂田幸治、花輪壽
彦、『観聚方要補』の研究(第 1 報)安政版の
書誌、第 64 回日本東洋医学会学術総会、
2013/6/1、城山観光ホテル(鹿児島県・鹿児
島市)

天野陽介、小曾戸 洋、出雲岩崎家所蔵の古
医書(誌上発表、一般演題抄録)、第 41 回日
本歯科医史学会・第 114 回日本医史学会合同
総会および学術大会、日本歯科医史学会会誌
30(2)、219、2013/5/11、日本歯科大学生命
歯学部(東京都・千代田区)

小曾戸 洋、花輪 壽彦、金沢文庫旧蔵の医
薬書(誌上発表、一般演題抄録)、第 41 回日
本歯科医史学会・第 114 回日本医史学会合同
総会および学術大会、日本歯科医史学会会誌
30(2)、223、2013/5/11、日本歯科大学生命
歯学部(東京都・千代田区)

野澤 隆幸、小曾戸 洋、花輪 壽彦、
足利学校遺蹟図書館所蔵の医薬書(誌上発表、
一般演題抄録)、第 41 回日本歯科医史学会・
第 114 回日本医史学会合同総会および学術大
会、日本歯科医史学会会誌 30(2)、228、
2013/5/11、日本歯科大学生命歯学部(東京
都・千代田区)

小曾戸 洋、卷子写本から宋元版へ 中世
日本における中国医書受容の様相、福岡医師
漢方研究会 4 月総会、2013/4/20、博多都ホ
テル(福岡県・福岡市)

小曾戸 洋、新発見の金沢文庫本・宋版『孫
真人玉函方』について、金沢文庫とその時代
(県立機関活用講座)、2012/11/17、金沢文
庫(神奈川県・横浜市)

小曾戸 洋、吉益東洞の肖像とその讃詞、
第 18 回吉益東洞顕彰会公開講座(広島)、
2012/9/16、広島大学医学部霞キャンパス 広
仁会館(広島県・広島市)

小曾戸 洋、漢方処方の史的変遷における

諸問題、第 29 回和漢医薬学会学術大会(東京)
(特別講演)、2012/9/1、北里大学薬学部(東京
京都・港区)

小曾戸 洋、玉函方・膏肓腧穴灸法をめぐ
って、第 7 回鍼灸学校教員のための古典講座
(東京)(公開講座)、2012/8/26、北里大学薬
学部(東京都・港区)

渡辺浩二、小曾戸洋、天野陽介、花輪壽彦、
寺澤捷年、和田源司、和田泰庵文書の研究(第
4 報)診療録新出本、第 63 回日本東洋医学会
学術総会(京都)、2012/6/30、国立京都国際
会館(京都府・京都市)

小曾戸洋、天野陽介、渡辺浩二、花輪壽彦、
寺澤捷年、和田源司、和田泰庵文書の研究(第
3 報)医学資料類、第 63 回日本東洋医学会学
術総会(京都)、2012/6/30、国立京都国際会
館(京都府・京都市)

②天野陽介、小曾戸洋、渡辺浩二、花輪壽彦、
寺澤捷年、和田源司、和田泰庵文書の研究(第
2 報)家系資料類、第 63 回日本東洋医学会学
術総会(京都)、2012/6/30、国立京都国際会
館(京都府・京都市)

②小曾戸洋、長野仁、星野卓之、天野陽介、
幻の宋版『孫真人玉函方』金沢文庫旧蔵本、
第 113 回日本医史学会総会・学術大会、
2012/6/17、獨協医科大学(栃木県・壬生町)

③ Hiroshi Kosoto, “Distinguishing
between Old Editions of Japanese and
Chinese Books” Workshop on Early Modern
Japanese Medicine. Reading Early Modern
Japanese Medical tests (Princeton, NJ,
US) 2012.11.2-11.3

④ Hiroshi Kosoto, “Development of
Japanese Kampo medicine” Workshop on
Early Modern Japanese Medicine.
Circulation of Medical Knowledge in Early
Modern Japan and East Asia (Princeton, NJ,
US) 2012.11.2-11.3

⑤ Hiroshi Kosoto, “The History and
Significance of Ishinpo” Integrative
Multi-level System Biology Project(Oxford,

UK) 2012.2.18-2.19
など

〔図書〕(計 3 件)

小曾戸洋、天野陽介、大修館書店、針灸の
歴史：悠久の東洋医術(あじあブックス)、
2015、277

小曾戸 洋、大修館書店、新版 漢方の歴
史 中国・日本の伝統医学(あじあブックス)、
2014、247

編者『観聚方要補』安政版刊行委員会(小
曾戸 洋、渡辺浩二、堀田広満、大津幸恵、
天野陽介)、医聖社、『観聚方要補』安政版、
2013、384

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小曾戸 洋 (KOSOTO, Hiroshi)
北里大学・東洋医学総合研究所・医史学研
究部・部長
研究者番号：90186693

(2) 研究分担者

天野 陽介 (AMANO, Yosuke)
北里大学・東洋医学総合研究所・医史学研
究部・上級研究員
研究者番号：20390734

(3) 連携研究者

特になし